

公表

事業所における自己評価総括表（令和7年度）

○事業所名	ゴットオフライフ沖縄校(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2025年 4月 9日		～	2025年 4月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 25日		～	2025年 4月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国籍や年齢にかかわらず、さまざまな背景を持つご利用者を受け入れることが可能である。	ポルトガル語、スペイン語、日本語など、複数の言語に対応可能な職員を配置し、多様な言語を必要とする方への支援体制を整えている。さらに、通訳のできる職員も配置しており、日本語を話す職員との円滑な意思疎通を図るための通訳や、保護者の日常生活に関する相談・支援を行っている。	外国籍の職員を対象に制度に関する勉強会を実施し、保護者様の受給者証取得に向けた支援をより充実させられるよう、職員の制度理解と支援力の向上を図る。
2	専門性の高い療育を提供できている	ブラジルの大学で専門的な知識を身につけた職員や、現地の医療機関での勤務経験、産業カウンセラー等の資格を持つ職員を配置している。心理・言語分野におけるそれぞれの専門性やこれまでの経験を活かし、ご利用者の発達や生活面に寄り添った支援を行っている。また、ご利用者一人ひとりの状況や課題に合わせ、必要に応じて個別での支援や対応を実施している。	職員一人ひとりの専門的な知識や支援スキルを高めるため、継続的な学びの機会を設けている。定期的な勉強会の開催に加え、各分野の専門家を講師とした研修を実施し、職員の資質向上とより質の高い支援の提供につなげている。
3	定期的なイベントの開催を行えている	ハロウィンやクリスマス会、母の日・父の日など、季節ごとの行事や文化に触れられるさまざまなイベントを企画・実施している。通常の支援内容が固定化しないよう、多様な活動や体験の機会を取り入れ、ご利用者が楽しみながら新たな経験を得られるよう工夫している。	今後は、イベントの開催頻度や内容のバリエーションをさらに充実させ、さまざまな文化や習慣に触れることのできる機会を増やしていきたい。多様な文化への理解や興味を深めながら、楽しみを持って参加できる活動の提供に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の日本の学校に通う同年代の子どもたちと交流する機会が少なく、異なる環境で生活する同年代の子どもたちと関わる機会の確保が課題となっている。	地域のこども園や小中学校との連携や交流の機会が十分に確保できておらず、今後は関係機関とのつながりを深め、情報共有や相互交流の機会を増やしていくことが課題である。	地域の学校との交流を促進するため、本校を会場とした交流会を開催するなど、より多くの子どもたちが交流できる機会を工夫して設けていく。また、地域のこども園や小中学校をはじめとした地域資源への積極的な働きかけを行い、継続的な連携・交流につなげていく。
2	外出支援を充実させ、利用者の満足度を向上させる	継続的に毎月実施していくためには、校舎の予算面での調整が必要であり、また、実施のたびに保護者様へご理解やご協力をいただくことも課題となっている。	継続的な活動実施に必要な予算を確保するため、法人本部へ稟議書を提出し、必要な費用について承認を得る。また、活動内容や目的、安全面への配慮などをまとめた企画書を作成し、保護者様へ丁寧に説明することで、活動への理解と協力を得られるよう努める。
3	就学児より、就労に向けた取り組みが行われていない	現時点では、就労継続支援事業所や企業等との連携が十分に図れていない。また、本校では児童の年齢層が比較的低いため、就労に対する意識や関心には個人差があり、就労を見据えた支援に対する考え方にばらつきがみられる。	必要に応じて実際に事業所等へ訪問し、支援内容や受け入れ状況について理解を深めるとともに、将来的な連携につなげていく。また、保護者会などを通じて、将来の就労を見据えた準備の大切さや、早い段階から就労に向けた意識を育てることの重要性について情報発信を行い、保護者と共通認識を持ちながら支援を進めていく。